

令和8年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

市民文教委員会

開催日時	令和8年4月18日（土） 午後10時から11時30分まで
開催場所	舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等
テーマ	児童生徒の不登校への対策 ～未来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり～
参加市民	25人
出席議員	担当委員会：市民文教委員会 谷川眞司、仲井玲子、伊田悦子、上羽和幸、眞下隆史、水嶋一明 サポート委員会：福祉健康委員会 田畑篤子、小杉悦子、杉島久敏、廣瀬昇、眞下弘明、南正弘 オブザーバー 肝付議長 議長、野瀬貴則 副議長

内 容

【全体概要】

多様な視点からご意見をいただくため、次の方々にご参加いただくこととし、舞鶴市での不登校の現状や支援に関する資料を送付することにより、一定のご理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

〈参加者の皆さん〉

- (1) 不登校児童生徒に携わっておられる方
- (2) 不登校児生徒の居場所づくりに携わっておられる方
- (3) 民生委員
- (4) 保護者
- (5) テーマに関心を持つ市民（公募）



各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

1班 担当議員：仲井玲子 市民参加人数：5人

《不登校となる原因や背景》

- ・家庭が子どもにとって心理的安心安全な場所になっていない
- ・学校の先生との関係

- ・友達との関係
- ・本人の問題

《課題や背景を踏まえての意見や提案》

- ・不登校の親の会の開催（経験者の話を聞く）
- ・不登校の見方を広げる学習会
- ・家庭で共同作業を行う。
（親子のコミュニケーションの時間）
- ・親の学びの場
- ・学校カウンセラーと先生との協働の体制
- ・全教職員の学びの場・情報交流
- ・別途専門職の配置
- ・オンライン授業の充実
- ・不登校の子どもの居場所づくり
- ・不登校の親、子どもの話を聞いて受け止める場
- ・先生と子どもの信頼づくり



《行政としてできる方策や実行性のある解決策》

- ・民間との共同での子どもの居場所づくり
- ・親の学びの場の創出
- ・不登校専門職の配置
- ・メタバースなどを使用したオンライン授業の充実

2班 担当議員：水嶋一明 市民参加人数：5人

《不登校となる原因や背景》

○学校の課題について

- ・病気として対応できていない。
- ・学習、クラブ、校則等学校生活に関する問題。
- ・仲のよい友達がいらない、授業が分からない、宿題ができない、学業の不振、本人が授業についていけない。

○家庭の課題について（保護者等含む）

- ・共働きのため、子どもについて親の目が届いていない。
- ・核家族で子どもに関わることができる人間が少ない。
- ・家庭に関すること（家庭生活）や子育ての基本は親であるので、保護者への教育が必要。

○社会の課題について

- ・現代社会は効率を求める社会であり、人間関係の希薄さや地域のつながり、人間の関わり方などの変化が求められている。
- ・不登校の原因・要因は社会にある。

○本人の課題について

- ・不登校児童生徒の特性として、コミュニケーションが苦手傾向にある。

《課題や背景を踏まえての意見や提案》

○学校の課題について

- ・不登校児童生徒の相談は担任の先生の責任にせず、フリースクール等他の関係機関との連携・協働の取組も進め、一緒になって解決していくことが望ましい。
- ・学校での居場所づくりの取組も必要なため、学校のユニバーサル化や校内教育センターの設置など、学校内にも不登校対策に必要な居場所を確保する。

○家庭の課題について（保護者等含む）

- ・子どもの理解や生活習慣や社会的自立の確立につながり、家庭の教育力の向上などにつながる講演会や集会を関係団体や行政などが連携し積極的に開催するなど、家庭を地域で支える仕組みづくりを行う。

○社会の課題について

- ・それぞれの多様性が認められ、自分の存在価値を感じることができる社会の実現が必要である。
- ・多様性への社会の理解が浸透し、充実させていくことは社会の責任として重要であり、そのような取組が不登校等の要因の解消につながる。



＜＜行政としてできる方策や実行性のある解決策＞＞

○学校の課題について

- ・学校での居場所づくりが必要であることから、学校のユニバーサル化や校内教育支援センターの設置が必要。
- ・不登校予防のためのリスクアセスメントに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の制度をうまく利用して解決していく。
- ・不登校問題を担任個人の責任にせず、教師集団で対応する仕組みづくりやフリースクール等他の関係機関との連携・協働の取組を進める。

○家庭の課題（保護者等含む）の解決について

- ・家庭を地域で支える仕組みづくり、各支援団体また、行政が主催する研修会等に保護者が参加できような仕組みづくり。
- ・子どもの理解や生活習慣の確立、社会的自立の確立など家庭の教育力の向上につながる取組など、家庭を地域で支える仕組みづくり。

○社会の課題の解決策について

- ・それぞれの多様性が認められ、自分の存在価値を感じることができる社会を実現していく。
- ・多様性の社会の理解が浸透し、充実した社会を実現していくこと。

○本人の課題解決策について

- ・自己理解ができ、自分の特性を理解・表明できるコミュニケーション能力を向上させる支援。
- ・自立を目指して児童生徒一人ひとりの学びに関するニーズを正確に把握し、個々の状況にあった学びの提供の実現を図ること。

3班 担当議員：伊田悦子 市民参加人数：5人

＜＜不登校となる原因や背景＞＞

○学校を中心とした背景

- ・自分の発達にあった内容ではない学習
- ・人を傷つける言葉
- ・親と子どもに寄り添っていない。
- ・低学年については、生活リズムを整える支援をしてほしい。
- ・勉強がわからないまま進級してしまう。
- ・親同士の交流が少ない。
- ・教師のスキル不足
- ・教員の少なさ
- ・担任によって対応が変わる。

○家庭を中心とした背景

- ・社会不安
- ・スマホ依存
- ・コミュニケーション力の弱さ
- ・テレビゲーム依存
- ・社会性の弱さ
- ・朝あいさつしない。
- ・学校に行かなくても時間がつぶせる
- ・対人恐怖

○社会の背景等

- ・相談の入り口が分からない。
- ・社会の理解
- ・「不登校」に対する負のイメージ
- ・選択肢の少なさ
- ・フリースクールに対する理解の不足や支援の弱さ



《課題や背景を踏まえての意見や提案》

○学校を中心とした対策

- ・課題に対応できる教員の増員
- ・日本の教育の見直し
- ・コミュニケーションを増やす。
- ・フリースクールに対する理解の研修
- ・親の声を聞いてほしい。
- ・スマホ規制
- ・子どもや親に寄り添う教師

○家庭を中心とした対策

- ・子どもや地域のなかでのコミュニケーションを増やす。
- ・社会性の弱さから地域などとのつながり強化
- ・親自身の学習

○社会を背景とした課題の解決策

- ・フリースクールに対する経済的支援の拡充
- ・不登校に対する理解
- ・公教育に対する支援（財政的・人員の増員）

《行政としてできる方策や実行性のある解決策》

- ・フリースクールに対する支援の強化
- ・フリースクールや居場所を増やす。
- ・保護者への情報提供
- ・不登校対策の予算と人員確保
- ・フリースクールの横の連携の強化
- ・わかりやすい相談の入り口等の紹介
- ・基本となる公教育の充実

《その他》

フリースクールをされている方2名、実際お子さんが不登校だった保護者の方3名のグループだった。実際の体験の中でのご意見や思いをたくさん話していただき、改めて自分自身の気づきとなった部分がたくさんあったと同時に、参加者からも出されていたが、委員会として、市内のフリースクールへの視察や関係者の皆さんとの懇談なども必要と感じた。また、関係者の方からは、舞鶴市の不登校対策は進んでいると感じているとの意見もあった。

4班 担当議員：上羽和幸 市民参加人数：6人

《不登校となる原因や背景》

- ・学校で友達関係がうまくいかず一人になる。
- ・学校でつらいことがある。先生や友達との関係。
- ・先生との関わりに課題がある。
- ・不登校の原因はいじめ。昔からある。
- ・学校へ行くことがゴールになってしまっている。
- ・親が真剣に向き合っていない。親子関係がしっかりできていない。規律ある生活ができていない。
- ・貧困家庭での学力の差があり、不登校に繋がる。
- ・親が世間体を考えて無理に学校へ行かせようとして悪化する。

《課題や背景を踏まえての意見や提案》

- ・家庭がしっかり支えるべき。
 - ・学校の先生も学校外であったことが原因となって不登校になったことへの対応は出来ない。
 - ・ゴール設定を変えるべき。学校がゴールではない。
 - ・今日が安心できる家庭の幸せが必要。
 - ・地域行事などで子どもたちの集う場所を復活させるべき。
- 子どもが来れば親も参加し、コミュニティーができあがり不登校も減る。

《行政としてできる方策や実行性のある解決策》

- ・対策と原因をもっと掘り下げるべき。
- ・子どもが学校に行けないと親も仕事に行けず経済的な問題も起こってくる。少し預かってくれる施設がほしい。
- ・小規模の学校で不登校だった児童が学校に行けるようになった事例もある。こうした学校を小規模特例校制度などにより、受け入れ先のひとつとしてほしい。
- ・教育委員会が不登校や引きこもりの実態を把握するべき。
- ・居場所づくりのためにフリースクールを増やしてほしい。
- ・行政が地域のつながりをつくれる行事を積極的に企画してほしい。
- ・不登校の子どもを支援するボランティアの人たちに行政は手厚く支援をしてほしい。



5班 担当議員：眞下隆史 市民参加人数：5人

《不登校となる原因や背景》

(学校・教育環境)

- ・学校が子どもたちの居場所になっていない。
- ・児童生徒を一律化してきた過去があり、個性が認められていないのでは。
- ・先生自体に個性が求められていない現状である。

(人と人とのつながり)

- ・地域の人と子どもたちとの関りが少なく、困難に気付かず救う機会がない。
- ・地域や多世代交流が少なく、子どもは親に関わる比重が過度になっているため、周りの人も親の責任にしてしまう。
- ・学校の中でも、学年を超えた関わりが少ない。

(把握不足)

- ・不登校になる原因が他者は分からないことが多い。
- ・本人にも原因が分からず不登校になる場合もある。
- ・原因は個人によって様々であり一つでないことは事実。



《課題や背景を踏まえての意見や提案》

(学校・教育環境)

- ・個性を認め合う環境づくりが重要であり、ここにいて良いと感じる居場所となるよう教育環境を整える。
- ・児童生徒の個性を重視する上で、見守る先生の個性も発揮できる環境を整えることも重要である。

(人と人とのつながり)

- ・地域では、子ども自体の人数が少なく親との関りが強いため、他者が関わることに遠慮がちだが、おせっかいを焼くことも重要である。
- ・現在、子どもの居場所となっている団体も多くあり、行政も含め共有しサポートしていくことも重要である。

《行政としてできる方策や実行性のある解決策》

- ・教育方針として、児童生徒そして先生の個性を発揮できる環境づくりを強化するよう、教育委員会や学校に求めている。
- ・行政と市民の共通認識として、世代間のコミュニティを活発化させるため、「ちょっとおせっかいなまち」として、子どもの見守りができるよう居場所づくりの強化と、現存する居場所の共有・サポートを強化する。

【今後の予定】

不登校になる原因や背景は多岐にわたり、その解決策もそれぞれたくさん提案していただき、方策やアイデアを皆さんと共有することができた。
出された意見や方策をもとに、不登校児童生徒を減らすことはもちろん、その予防もできるように行政が支援できることを考え、最終的に政策提言につなげることを目指す。